

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 5 月 17 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/17 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 1.9 m ³ /h	23.2	106.9 kPa abs	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 2.3 m ³ /h			B系： 0.07 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.5 m ³ /h	36.0	6.20 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.5 m ³ /h	34.8	0.27 kPa g	A系： 0.13 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.13 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/17 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	19.0
2号機	循環冷却システム	運転中	19.7
3号機	循環冷却システム	運転中	17.4
4号機	循環冷却システム	運転中	26

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

[6号機]・H25/5/20 使用済燃料プール内に設置されている使用済燃料ラックの点検を実施予定。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	5/15 17:20 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/17 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

< 5 . その他 >

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/1/8～ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。
- ・H25/5/9 9:44～ 6号機補機冷却系熱交換器(A)出入口弁点検に伴い、使用済燃料プール冷却系を停止(停止時プール水温度:15.8℃)し、残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転(原子炉側の冷却)と非常時熱負荷運転(使用済燃料プール側の冷却)を交互に切り替えて冷却する運用を開始。
- ・H25/5/14～5/17 2号機原子炉格納容器ドライウェル圧力減少時に原子炉格納容器ガス管理システムで測定している水素濃度および希ガス(クリプトン 85)濃度が上昇する現象が確認されている。圧力抑制室上部に滞留している水素および希ガス(クリプトン 85)が真空破壊弁を通じてドライウェルへ排出されているものと推定しており、その検証として、5/14から5/17の日中6時間程度、圧力抑制室上部に窒素を封入し、滞留している水素およびクリプトン 85の有無の確認を実施。窒素ガス封入実施中は原子炉格納容器ガス管理システムによりドライウェル内水素などの推移の監視を実施。なお、ドライウェル内水素濃度に変化はなかった。
- ・H25/5/17 8:55 頃 5・6号機RO処理水タンク上部より水があふれていることを、構内散水作業準備中の当社社員が発見。同日9:00に弁を閉にし、漏えいが停止していることを確認。現場確認の結果、漏えいの範囲は約3m×約20mで、漏えい量は5/16までのD7タンク水位と処理水の移送量から27.5m³と推定。なお、漏えいしたD7タンクの処理水は構内散水に使用している水であり、5/16のサンプリング結果はガンマ核種および全ベータとも検出限界値未満(セシウム 137の検出限界値:1.5×10⁻³Bq/cm³、全ベータの検出限界値:2.3×10⁻²Bq/cm³)。念のため実施した5/17のサンプリング結果はガンマ核種および全ベータとも検出限界値未満(セシウム 137の検出限界値:1.5×10⁻³Bq/cm³、全ベータの検出限界値:2.4×10⁻²Bq/cm³)。なお、漏えいした処理水については地面にしみこんでおり、漏えいした場所の付近に側溝などは無いこと、および漏えい発生箇所から海洋までの距離が約100m以上あることから、海洋への流出は無いものと判断。処理水が漏えいした原因については、処理水タンクは合計8基(D1～D8)あり、前日(5/16)予定していたD7タンクからD8タンクへの切り替え操作を失念したことから、D7タンクよりあふれだしたものと判明。
- ・H25/5/9 9:44 6号機補機冷却系熱交換器(A)出入口弁点検に伴い、使用済燃料プール冷却系を停止(停止時プール水温度:15.8℃)し、残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転(原子炉側の冷却)と非常時熱負荷運転(使用済燃料プール側の冷却)を交互に切り替えて冷却する運用を開始。
- 5/17 10:05 点検が終了したことから補機海水ポンプを起動。残留熱除去系により原子炉停止時冷却運転(原子炉側の冷却)と非常時熱負荷運転(使用済燃料プール側の冷却)を交互に切り替えて冷却を行っていたが、補機海水系の復旧により燃料プール冷却系を同日12:30に起動し、使用済燃料プール冷却を通常どおり開始。同日12:30現在のプール水温度は25.5℃。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 地下貯水槽に貯水している水移送実績 >

- 5/18 地下貯水槽 No.3 から G6 タンクへの移送を開始予定。
- 5/21 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を開始予定。なお、地下貯水槽 No.3 および No6 から G6 タンクへの移送については、共通の移送ラインを使用することから、交互に切り替えて移送を実施する予定。

< 拡散防止対策 >

- 5/16 地下貯水槽 No.1、2の漏えい検知孔内に漏えいした水および地下貯水槽 No.2 のドレン孔に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。また、地下貯水槽 No.3の漏えい検知孔内に漏えいした水を当該貯水槽へ戻す処置を実施。

< サンプリング実績 >

- 5/16 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14箇所)、地下貯水槽 No.1～4、6の漏えい検知孔水(10箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22箇所)についてサンプリングを実施。前回(5/15)実施したサンプリングの分析結果と比較して大きな変動はない。なお、地下貯水槽 No.1の漏えい検知孔水(北東側)の全ベータ値について、5/15の値(2.1×10³Bq/cm³)が若干上昇していたが、5/16の値(9.2×10²Bq/cm³)は5/14並み(7.2×10²Bq/cm³)に戻っている。

以上